長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2021 JUNE VOL.392

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



県下最大級の花園“大村公園”の花菖蒲が見頃を迎えていました。
一株一株表情が違う江戸系、肥後系、伊勢系の171種の菖蒲たち。個性豊かな菖蒲を楽しんだヘリドッグ太くんです。

診療科紹介 update
Vol.16 眼科

医長紹介 ～私の専門分野～
肝臓外科手術のご紹介

明日を担う Vol.14
・瀧口 尚（看護師）

TOPICS
・産科医療功労者大臣表彰を受賞して
・新任医師紹介
・第16回日本てんかん学会九州地方会
・第2回特定行為研修が開講しました

夏の医学生見学会のお知らせと
令和4年度初期研修医採用試験のご案内

看護部だより Vol.32

医療相談支援センターからのお知らせ

長與 専齋（1838年～1902年）

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介 Update

Vol.16



眼科

眼科のご紹介

現在当科では、スタッフ４名（非常勤１名）、レジデント１名で診察・手術を行い、視力や画像撮影などの検査は、視能訓練師 ２名で行っています。外来では主に、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症、緑内障、ぶどう膜炎などの検査・治療を行っております。小児では斜視・弱視の診療を行っております。またNICUでは、小児科医師と連携して未熟児網膜症の診療も行っております。手術では白内障が最多ですが、網膜剥離などの緊急疾患にも対応しております（図1）。

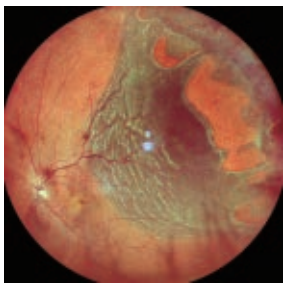


図１　裂孔原性網膜剥離

疾患名	症例数
白内障	582
裂孔原性網膜剥離	32
緑内障	28
黄斑前膜	23
翼状片	20
黄斑円孔	15
硝子体出血	14
糖尿病網膜症	12
人工的無水晶体眼	8
斜視	8

2020年の疾患別入院患者数

手術名	患者数
水晶体再建術	687
硝子体手術	107
緑内障手術	28
翼状片切除術	20
斜視手術	8
硝子体置換術	4
眼瞼内反症手術	3
網膜復位術	2

2020年の主要手術

視覚障害について

日本眼科医会が発表した2007年の視覚障害の原因は、ほとんどが慢性疾患です。(図2) 高齢者の増加に伴い視覚障害者数は2030年にピークをむかえ(図3)、視覚障害者がもたらす社会的損失額は8.8兆円になると試算されています。白内障など、手術で治せるものは全体のごく一部にすぎません。いかに緑内障などの慢性眼疾患を悪化させずに個々の視力を維持していくかが、国民全体にとって大切なことになってきます。

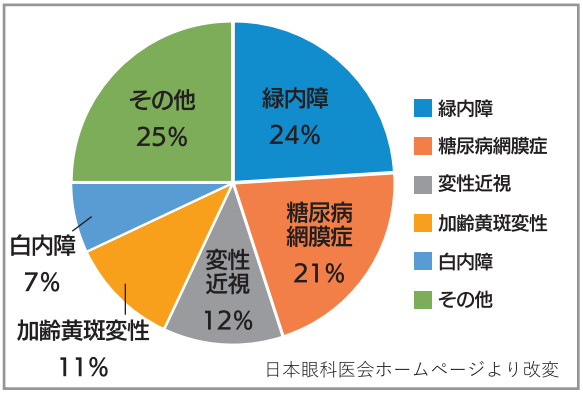


図2　視覚障害者数の原因疾患別内訳
視覚障害全体(良い方の視力<0.5)

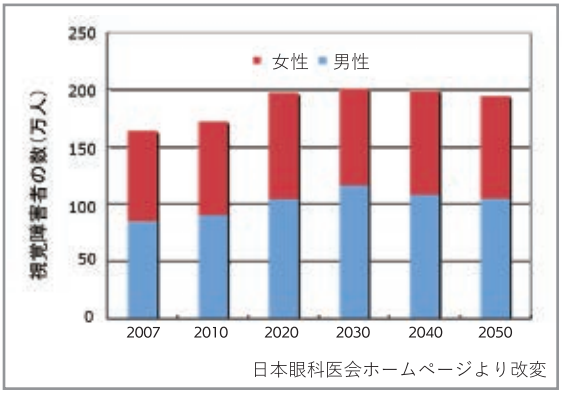


図3　視覚障害者数の推移:将来予測

緑内障とは

緑内障は、40歳以上の日本人のほぼ5%(20人に1人)が罹患する慢性疾患です。その多くは自覚症状がなく、進行性で不可逆的に視野が失われることによって特徴づけられます。治療を受けずに放置すると、最終的には視神経の委縮により失明に至る可能性があります。通常は、房水と呼ばれる眼内液の生成と流出のバランスが崩れることによって、眼圧が上昇することに関連しています。

低侵襲緑内障手術(MIGS)について

初期から中期の緑内障に関しては、これまで点眼加療が主な治療方針でしたが、近年低侵襲緑内障手術(MIGS)とよばれる手術が開発されました。これまでの緑内障手術に比べ眼圧下降効果は少ないですが、眼への負担が少なく点眼薬を併用して眼圧を目標眼圧まで下げることを目標にします。白内障手術との相性も良く、白内障手術と同時に行って手術の負担を減らすことができます。当院ではMIGSについては、iStent(アイステント)を導入しています(図4)。iStentを用いた低侵襲緑内障手術では、房水の排出を行う極小のステント(チタン製の管)を、特殊な器具を用いて眼内に挿入し、房水が排出される手助けをします(図5)。一方で、進行した緑内障や非常に眼圧が高い症例には従来の術式が適応となるため、個々の病状や病期に合わせた治療を行っていきます。



図4

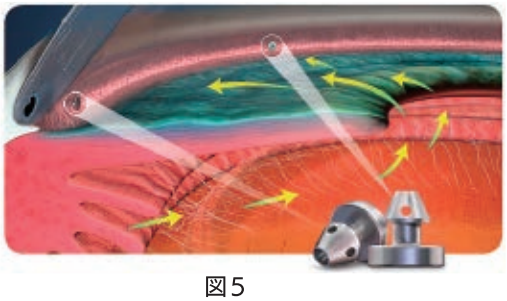


図5
Glaukos社ホームページより転載

医長紹介　～私の専門分野～

肝臓外科手術のご紹介



外科医長　北里 周

肝臓外科領域では、肝細胞癌、肝内胆管癌（胆管細胞癌）、転移性肝癌などの悪性疾患に対する肝切除術をはじめ、肝嚢胞に対する天蓋切除術など肝臓に関する様々な外科手術を取り扱っています。ここでは当院の肝臓外科手術について取り組みと実績を紹介いたします。

●肝切除術

図1は当院の肝切除症例数の年次推移を示しています。ここ数年は年間40例前後の肝切除を行っています。腹腔鏡手術は、2010年に腹腔鏡下肝部分切除・外側区域切除術は保険収載され、2016年には腹腔鏡下系統的肝切除術（区域切除・葉切除）が保険収載されました。当院でも症例に応じて腹腔鏡下肝切除術を適応しており、2017年以降は30%以上に腹腔鏡手術を適応しています（図2）。

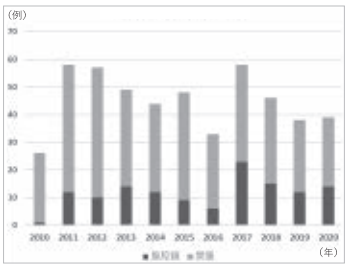


図1　肝切除年次推移

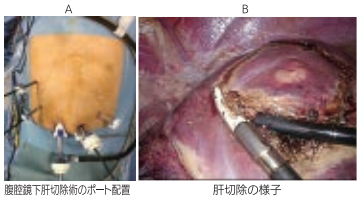


図2　腹腔鏡下肝切除術

●肝細胞癌

主に癌の肉眼的進行度（ステージ）や肝予備能（Child-Pugh分類）、肝障害度を用いて評価を行い、肝癌診療ガイドラインの肝細胞癌治療アルゴリズムに基づいて治療法を選択しています。肝切除術をはじめ、ラジオ波凝固療法（RFA）、肝動脈塞栓療法（TACE）、分子標的治療、放射線治療など、肝臓内科や放射線科と連携し症例に応じた治療を行っています。

肝細胞癌に対する肝切除術は、背景となる肝臓が慢性肝炎や肝硬変である場合が多く、肝予備能に応じた切除術式の選択が重要となります。当科ではChild-Pugh分類による肝予備能評価やCT検査を用いた肝容積測定、肝アシアロSPECT検査を用いた機能的肝容積測定（functional volumetry）を行い、安全性と根治性を担保した切除を目指しています（図3）。

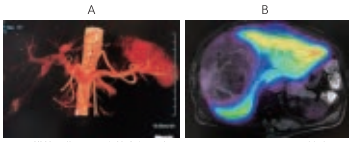


図3　術前評価

2010年から2021年に当科で切除を行った初発肝細胞癌230例の5年生存率は72.6%と良好でした。（図4）

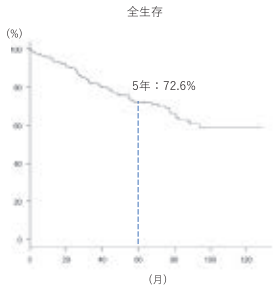


図4　肝細胞癌手術の予後

●転移性肝癌

転移性肝癌とは、肝臓以外の臓器にできた癌（原発巣）が肝臓に転移したものを意味します。ほぼすべての癌において、肝臓へ転移する可能性がありますが、実際は消化器系癌（大腸癌、胃癌、膵癌など）、乳癌、肺癌、頭頸部の癌、婦人科の癌（子宮癌、卵巣癌）、腎癌などが肝臓への転移を認めることが多いとされています。なかでも大腸癌の肝転移は切除による予後の改善が期待でき、消化管内科や大腸外科、各診療科と連携し適応を見極めたうえで積極的に切除を行っています。2010年～ 2021年の肝転移切除症例の5年生存率は62.1%と良好な結果でした（図5）。

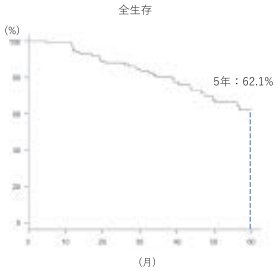


図5　転移性肝癌手術の予後

●良性疾患に対する肝臓外科手術

巨大肝嚢胞に対する腹腔鏡下天蓋切除術（図6）や肝内結石症に対する肝切除など良性肝疾患に対する肝臓外科手術も積極的に行っています。

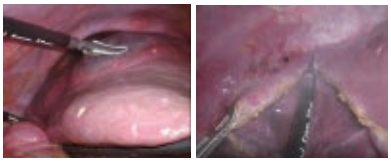


図6　腹腔鏡下肝嚢胞開窓術

当院では、肝胆膵外科高度技能指導医・高度技能専門医が肝臓外科手術を担当しています。内科や各診療科とも密に連携し、患者さんに最適な医療の提供に努めています。

明日を担う Vol.14

当院の“明日を担う”スタッフに、
work、life、そしてvisionを語ってもらいましょう。



副看護師長
瀧口（たきぐち）　尚（しょう）

profile
出身地：東彼杵郡川棚町
職種：副看護師長
好きな曲：釣りよかでしょうのテーマ曲（(笑)）
コブクロの“風見鶏”

Q：看護師を目指したきっかけは？
A：介護士をしていた親の影響もあり、“人の役に立つ仕事がしたい”という気持ちをずっと持っていました。高校生の時に見たオレンジデイズというドラマを通してその思いが強まり、仕事の内容をよく考えてみた結果、看護師を目指すことにしました。

Q：勤務して何年目になりますか。
A：12年目になります。5A病棟（泌尿器）に8年、７A病棟（外科）に2年勤務後、昨年11月から副看護師長に昇任、9A（化学療法）に配属となりました。

Q：副看護師長の役割は？
A：スタッフと師長の架け橋的な役割です。中間管理職としてマネジメントの視点も持ちながら、一般のスタッフと同じように患者さんのケアにも当たっています。どうしたらひとりひとりの患者さんにより良いケアを提供できるかばかりではなく、病棟全体でもより良いケアが提供できるような体制も考えながら、日々スタッフとともに看護を行っています。

Q：副看護師長になっていかがですか。
A：求められるもの、責任が増えましたね。管理職としての処理能力、対応力をもっと磨く必要があるなと感じています。また、人に指導することの難しさを実感しています。今は、目の前の課題を一つ一つクリアしていけるような土台作りをしっかりしていかなければと思っています。

Q：外科系から内科系の病棟勤務になって気づいたことはありますか。
A：外科と内科では患者さんの背景も違って、看護師としてのケアの関わり方が異なるという点です。現在の病棟では、個々の患者さんのadvance care plan（意思決定支援）が、本当に最善であったのかを振り返る機会が特に増えたと思います。

Q：大切にしていることは？
A：一つ一つを前向きにとらえながら、達成感につながるモチベーションを持つことです。

Q：今後の目標は？
A：スタッフにやりがいを抱けるような機会をたくさん作ってあげたいと思います。看護が楽しいと思える達成感を感じてほしいなと。患者さんのＱＯＬを高める為にはどうすればよいのかなどを自由に話し合える場や、カンファレンスを定着させて、スタッフの自発性が高められるような環境作りをしていきたいなと思います。

Q：スタッフにメッセージをお願いします。
A：コロナ禍で色々制限はありますが、今だからこそできるチーム連携を、次の花が開くときに備えてみんなでがんばりましょう！！

聞き手：難治性疾患研究部長　小森 敦正

産科医療功労者大臣表彰を受賞して

産婦人科部長・総合周産期母子医療センター長　安日 一郎



この度、当院の周産期医療センターは、厚生労働大臣から産科医療功労者（施設）表彰を拝受いたしました。前身である国立長崎中央病院時代の1975年、全国に先駆けて未熟児医療センターを開設、その後現在に至るまで、長崎県の周産期医療の中核として永年にわたり長崎県の母体、胎児、新生児の医療に貢献してきました。2007年、県内初の総合周産期母子医療センターに認定され、その機能はさらに拡張され、年間200症例以上の母体搬送を県内各地から受け入れ、長崎県の周産期医療の要としての役割を果たしていること、県内外の周産期医療の担い手としての多くの産婦人科医、新生児科医を養成する教育センターとしての役割を果たすとともに、長崎県の離島の周産期医療の担い手の育成と離島への人材派遣に大いに貢献してきたことが評価されての受賞です。この受賞は、当周産期センターを長年にわたって支えてきた新生児科と産婦人科の全てのスタッフの皆さんの継続した医療の賜物です。

私が2003年、本誌に寄稿した「成育医療センター：EBMを戦略とした周産期医療の展開を目指して」から一部を抜粋し、前身である未熟児医療センター開設に尽力された故・増本義先生に敬意を表したいと思います。

「県央地区は周産期医療では日本でも先駆け的な歴史を持っています。当院の周産期医療センターの礎は故・増本義先生（小児科）によって築かれました。日本の周産期医療の曙の時代である1970年代後半にすでに九州では屈指の未熟児センターを有し、当時、長崎県の周産期死亡率は離島やへき地医療という背景にもかかわらず全国屈指の好成績でした。まだ周産期医療という言葉が日本では馴染みの薄い時代でした。北米の周産期医療の現場でレジデントとしてトレーニングを受けた増本先生は、四半世紀も前の当時から周産期の地域医療システム化（先生はregionalizationという言葉を使っておられましたが）の重要性を提唱しておられました。私事ながら、1981年に研修医として、またその後2年半程産婦人科のスタッフとして増本先生に師事する機会に恵まれた私は（この頃、青木幹弘先生は研修医でした）、彼の医療システム論に強い感銘を受け周産期科医としてのモチベーションの基礎をしっかり学ばせていただきました。当周産期センターは1988年には母子医療センターとして国から認定され、今回、新病院への移行とともに成育医療センターとしての認定を受けました。」

（2003年「せんさい」より）

TOPICS

新任医師紹介



肝臓内科医長
本吉　康英

H12年卒業後、当院には研修医（2年目）として1年、大学院卒業後に肝臓内科医師として4年勤務し、今回10年ぶり3度目の赴任となりました。専門は肝・胆・膵疾患全般、前任地では特に肝細胞癌と肝硬変症を中心にしていました。これまでに得た経験や知識・技術を当院での診療に活かし、発展させていきたいと思っています。よろしくお願い致します。



呼吸器内科医師
井手口　周平

6月より呼吸器内科に赴任しました井手口周平と申します。昨年度までは長崎大学大学院で感染症の研究をしており、約半年前より臨床に復帰しております。久しぶりの市中中核病院での勤務ということもあり、不慣れな点も多々あると思いますが、県央医療に貢献できるよう尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。



整形外科医師
中川　晧一朗

6月より赴任しました中川と申します。5月までは国立佐賀病院で外傷を中心に治療を行っていました。高齢者の骨折が多く、早期離床、早期リハビリテーションを目標に、また術前のADLに限りなく近づけることを目標としていました。長崎医療センターでも引き続き尽力していく所存です。よろしくお願いいたします。



精神科レジデント
倉田　青弥

長崎みなとメディカルセンターから参りました精神科レジデントの倉田青弥と申します。長崎医療センターははじめての勤務で何かとご迷惑をおかけするかと思いますが、なるべく早く慣れるように精進いたしますのでどうぞ宜しくお願いします。

TOPICS

第16回日本てんかん学会九州地方会

てんかんセンター/脳神経外科　小野 智憲

第16回日本てんかん学会九州地方会を2021年7月10日（土曜日）に開催することとなりました。こうした学会や研究会はWEB開催であっても、単に知識獲得や議論の場だけではなく、有志の人脈形成の大切な機会でもあることを願い、このポスターイラストを作成しました。通常の発表や講演だけでなく、患者さん側からの講演や視聴者がオンライン参加できる脳波クイズといった企画も用意しています。多くのご参加をお待ちしています。

なお、今回の準備で、参加登録、参加費支払い、領収証/参加証の発行、そして当日の視聴誘導まで、すべてオンライン上で案内できるような独自のシステムを構築しました。今後、学会・研究会など予定されている方で、興味がございましたらご連絡ください。



【日 時】
2021年7月10日（土）
午前10時～配信開始

※視聴には事前と参加登録が必要です。詳しくはWEBサイトをご覧ください。
http://jesq16th.umin.jp/

第2回特定行為研修が開講しました

副看護部長　髙尾 珠江

令和3年6月1日（火）第2回目の特定行為研修を開講することができました。受講生は3名（県央地区から1名、当院から2名）の受講です。これもひとえに院内・院外の方々のご支援のおかげだと感謝しております。皆さまもご存じとは思いますが、特定行為とは、診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる行為で、現在、21区分38行為あり、今後の急性期医療から在宅医療などを支える看護師を育成することを担っています。

当院では、約8か月をかけて講義―演習―実習を行い、「呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連」「呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連」「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の4区分8行為を受講できます。

講義と演習ではeーラーニングを導入していますが、eーラーニング受講後は診療部から疑問等に対応してもらう時間やその学びを演習で深められるようなプログラムで対応しています。興味のある方は、ぜひ次年度の受講をチャレンジしてください。

特定行為研修を修了した看護師が各病棟で活躍することは、患者さんへのタイムリーな診療提供と看護の質向上につながると思っています。今後も皆様のご支援をお願いいたします。



夏の医学生見学会のお知らせと令和4年度初期研修医採用試験のご案内

夏の医学生見学会のお知らせ

夏の医学生見学会を下記の通り実施いたします。2021年度と同様、当面は感染対策のため見学内容を一部変更しております。ご了承くださいませ。

【実施期間】
2021年7月6日（火）～8月26日（木）
※平日　火曜日～金曜日のみ（8月採用試験日を除く）

【見学内容】
希望診療科見学

6月21日（月）より
HPにて受付開始!!



令和4年度初期研修医採用試験の受験者を下記日程で募集しております。

【応募期間】
7月1日（木）から受付開始

【選 考 日】	【締切日（必着）】
第1回：8月 6日（金）	7月26日（月）
第2回：8月13日（金）	8月 2日（月）
第3回：8月20日（金）	8月 9日（月）
第4回：8月27日（金）	8月16日（月）

採用方法：公募により選考をおこなう（マッチングに参加する）。
（1）小 論 文：課題について800字程度
課題については願書締切後に郵送で案内予定、指定日までに返送すること。
（2）面接審査（WEB面接）：個人面接で、ひとり20分程度
（3）適正検査：願書締切日以降に郵送予定。
小論文と併せ返送すること。

※詳しくは当院HPをご覧ください。
https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/

看護部だより Vol.32

看護部のホームページ、リニューアルしました！

教育担当係長　井口 麻里

看護部では、院内および地域のみなさま、看護学生のみなさまへ、看護師の仕事や教育などについて広く知って頂くことを目的に、ホームページをリニューアルいたしました。ぜひ、看護部のホームページをご覧ください。



当院で看護師が学べることを紹介しています。新採用者の教育はもちろん、特定行為研修などを案内しています。



新人ナースの声や毎日の仕事内容を紹介しています。



キラリ☆とひかる看護師の看護実践を紹介しています。



専門看護師、認定看護師など、多くのスペシャリストの活躍を紹介しています。



保育園の紹介や子育てしながら働く看護師を紹介しています。



普段働いている看護師の日常を垣間見ていただこうと、院内のさまざまな立場にいる看護師のひとときの癒し（昼食・お弁当）を紹介しています。



大村市の魅力、大村市でのエンジョイライフを紹介しています。

当院ホームページのトップページより、「部門の紹介」→「看護部」の中で紹介しています。
「看護師きらり」や「ナース飯」は、毎月更新していく予定です。お楽しみに！

医療相談支援センターからのお知らせ

患者サポート室のご紹介



当院は1階に患者サポート室を設置しております。患者サポート室では医療ソーシャルワーカーや看護師が、患者さんまたはご家族の不安や心配事の相談に応じています。具体的には、医療に伴う経済的な問題（医療費や保険、公的補助などについて）や、医療行為自体への問題（医療行為に対する不安や疑問）など医療行為において生じる種々の問題に対応しています。





お問合せ

相談受付　月～金曜日　8:30 ～ 17:00

相談方法　電話または面談
※面談は、ご予約いただけると助かります

担　　当　医療ソーシャルワーカー、看護師

相談費用　無料

どうぞお気軽にご相談ください。



理　念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する